

学校教育目標	夢や希望の実現に向け、未来をたくましく切り拓く生徒の育成
育成を目指す資質・能力	「実践力」(・人間関係形成力 ・自己表現できる力 ・意欲的に取り組む力)

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	<b>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</b> 【1年生】4月に4教科テスト実施。社会の平均点が低かった。 【2年生】大分県学力定着状況調査(R4. 4月実施)より、特に社会・理科の資料活用問題の正答率が低い。 【3年生】全国学力状況調査(R4. 5月実施)より、国語で書く問題、数学でデータの読み取り問題に課題が見られた。	<b>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</b> 【1年生】形としてはできるが、内容が深まらない。 【2年生】長時間テレビゲームをする生徒の割合が全国平均より高い。 【3年生】スマートフォンの使用時間が全国平均より長い。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ・放課後の補充学習の充実については、生徒アンケートで朝学習、補充学習が基礎学力向上に役立っていると答えた生徒は1年87%、2年生74%、3年生90%で生徒自身も手ごたえを感じている。 ・補充学習での確認テストで合格点に満たない生徒に補習を行い、基礎力の定着を図った。	
指導の状況	<b>1 組織的な授業改善の取組状況</b> ・新しい評価規準を各教科部会で設定し、共通理解のもとで授業を進めることができた。中心課題の設定や「振り返りシート」、言語活動の捉えなどを話し合うことができた。 ・授業評価アンケートを学期末に実施し、その結果をもとに教師自身の1学期の振り返りと2学期に向けての改善点をまとめることができた。 <b>2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況</b> ・教科部会で授業評価アンケートの分析や「振り返りシート」の共有、課題に対して有効な言語活動の捉えが確認でき、授業力が向上した。 ・家庭学習の充実を目的としてテスト期間中、各自でできるSNSなどのルールの設定なども取り組んだ。	

学力に関する達成指標

学校評価アンケートにおいて、

- ・定期テストにおいて、正答率30%未満の生徒の割合が8%未満
- ・1時間の授業におけるめあて・課題の明示と活動の場の設定により、授業に積極的に参加し、学習内容が分かったと実感したと答えた生徒が80%以上
- ・家庭学習の手引き、週末課題、補充学習プリントの取組により、家庭学習が定着してきたと答えた保護者が75%以上

